校長室だより NO.　２１ 平成30年７月９日	すべては光る	梅園小学校長 たか　す　りょうへい 髙　須　亮　平

「ふわふわ言葉」が浸透するものの、生活アンケート結果・黄信号

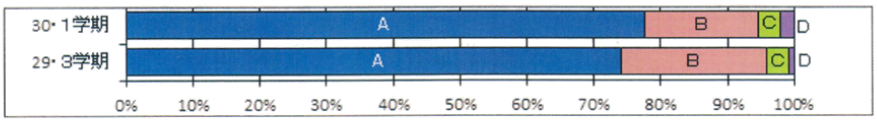
６月に実施しました「生活アンケート」結果が明らかになりました。このアンケートは、これまで毎学期、全校の子どもを対象にして調査しているもので、その結果をもとに、学級担任が子どもたち一人一人と面接をして、これまでの生活や今後の指導の参考にするものです。このアンケート結果から、全般的な子どもの生活意識の傾向として次のことが分かりました。

1　昨年度3学期の結果はこれまでの最高でした。それとの経過比較をしてみますと、人から「いやなことをされている」という子どもが1．6倍になっています。しかし、人が喜ぶことをする子どもは微増ですがこれまでの最高でした。現状は、黄信号の「要注意状態」です。
2　「学校が楽しいか」「勉強が楽しいか」について、「楽しい」（グラフ中・A）と回答する子どもが2～3ポイント増加しています。逆に、「楽しくない」（D）も微増の傾向です。

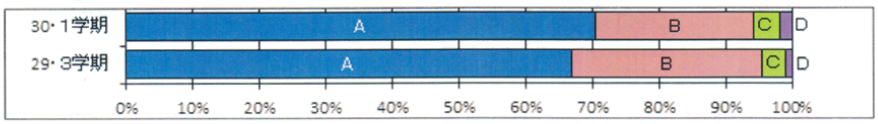
それでは、アンケート項目に従い、今回の結果と昨年度３学期の結果とを比較したグラフを示し、主な傾向を探り、その成果と課題を検討します。

まず、１・２項目の「学校は楽しいか」（グラフ①）、「勉強は楽しいか」（グラフ②）について、互いの関連性が見られますので並べて提示します。

【グラフ①】「学校は楽しいか」　A：楽しい　B：どちらかと言えば楽しい　C：どちらかと言えば楽しくない　D：楽しくない



【グラフ②】「勉強は楽しいか」

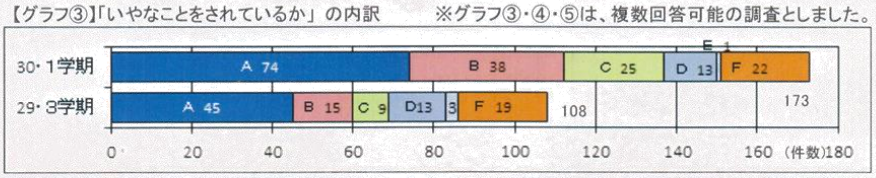


学校・勉強（グラフ①・②）について、ともに「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」は合わせると９６～９７％となっています。その中で、「楽しい」が増加してきていることがうれしい傾向です。逆に、「楽しくない」も増加しています。この子どもの人数は２０名弱ですが、まず、このような子どもに照準を合わせ、学校が楽しい、勉強が楽しいと思えるように、具体的にどのように指導すべきかを工夫しながら、やりがいのある活動ができるようにしていきたいと思います。

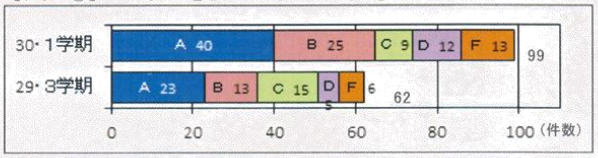
次に、３項目の「いやなことをされるか」についてです。「思う」の回答数は全体の１４％（前年度３学期１０％）で４０名弱増加しています。また、４項目の「いやなことをされている子がいるか」については、「思う」の回答数は８％（前年度３学

期６％）で、２０名弱増加しています。この３・４項目から「要注意」の黄信号がつきそうです。これまでは減少傾向でしたが、今回の原因を探り、対応する必要を感じます。特定の学年で、顕著な傾向が見られますので、その学年から再度「チクチク言葉」を気を付ける指導をしていく必要を感じます。両者の内訳はグラフ③・④です。

【グラフ③】「いやなことをされているか」の内訳　　※グラフ③・④・⑤は、複数回答可能の調査としました。



【グラフ④】「いやなことをされている子がいるか」の内訳

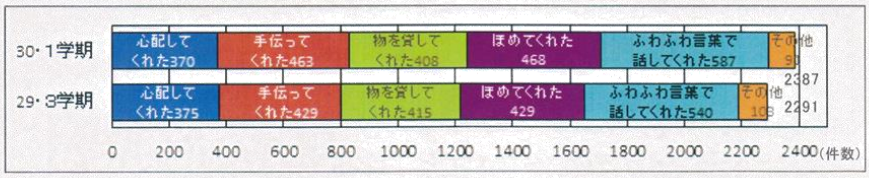


A：悪口を言う
B：たたく・ける
C：仲間外れ
D：物を隠す
E：お金や食べ物
F：その他

「いやなことをされているか」「いやなことをされている子がいるか」のそれぞれの合計件数は昨年度３学期の１．６倍になっています。「悪口を言う」、それからエスカレートした「たたく・ける」がとても多くなっています。友達関係のあり方等について再度考える場を持つことが必要です。やはり人の迷惑になることをしたり、いやなことをしたりする行為への、善悪の判断をきちんとする指導が求められます。

次に、「うれしいことをしてもらったか」について、「ある」の回答数は全体の９７％（昨年度３学期と同程度）でした。その内訳はグラフ⑤です。

【グラフ⑤】「うれしいことをしてもらったか」



全体では昨年度３学期より９６件増加し、こまれでの最高値でした。人を気遣ったり、まわりの友達のがんばりを認めたりする件数がさらに増加しています。その中で「ふわふわ言葉をかけてもらった」が４７件増の５８７件で一番多く、全校の子ども全体の７４％の子どもが感じています。その次は「先生や友達にほめてもらった」「手伝ってくれた」の順で、徐々にまわりを意識した行動が自然にできるようになってきています。これらは、梅っ子スマイル（生活委員会）の「ふわふわ言葉」の呼びかけや「ふわふわの木」を作り上げる活動が効果を上げていると考えられます。まさに「ふわふわ言葉」が確実に全校に浸透してきています。

今回のアンケート結果から、子どもたちは、その生活意識として「要注意」の黄信号を点灯させていることが分かります。特に人のいやがることが比較的多く発生していることは、私たちの指導のあり方も見直さなければなりません。逆に、子どもの意識の傾向から指導の方向性が明確になったことは、新たな前進につながると考えます。